

館内施設のご紹介

- 美術情報センター** 全国の展覧会案内や、美術関係の図書、映像ソフトなどを資料としてご利用いただけます。
- レストラン** 80席あるゆたかな空間で、ゆったりとした時間をお過ごしいただけます。
- カフェ** オープンテラスもあり、お飲み物のほかサンデオフィッシュなど軽食やケーキもご利用しています。
- ミュージアムショップ** 当館オリジナルグッズやポストカード、美術図書などを販売しています。

各種催しのご紹介

美術館をさらに楽しく利用していただくために、当館では展覧会以外にも以下のような各種催しを実施しています。

講演会

美術鑑賞をさらに深めていただくために、展覧会関連の講演会を開催しています。また、KEN-VI文化セミナーでは、著名な文化人をお招きした講演会を開催しています。

ガイドツアー

金・土・日曜日の午後1時から、ミュージアムボランティアによるコレクション展のガイドツアーを行っています(要コレクション展観覧券)。

解説会

日曜日の午前11時から、ミュージアムボランティアによる特別展の解説会を行っています(特別展開催期間中・無料)。

美術講座

日分でも作品づくりをしてみたい方のための実技講座を実施しています。

こどものためのプログラム

展覧会鑑賞と制作を組み合わせた「こどものイベント」やアーティストによるワークショップなどを、1ヶ月に1〜2回程度行っています。

映画会

ミュージアムホールで、1ヶ月に1回程度劇場映画上映会を行っています。

コンサート

館内の様々なスペースを利用した多彩なコンサートを開演し(年間約4回)開催しています。

※くわい内容やスケジュールについては、当館の情報誌「HART」やホームページ、催しごとのご案内をご覧ください。

表紙 原地孝四郎 (書) 1929年 当館蔵

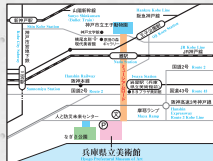
近代日本における創作版画の重要作家のひとり、原地孝四郎による第8回制作版画展出品作。厚手の和紙に刷られた木版画で、空の白色部分に雲母粉が散りまじるなど、小品ではあるが繊細な技法が感じられる。巻という身近なモチーフを幾何学的な形態とシックな色面で構成したモダンな感覚あふれる作品である。

美術館ご利用案内

- 開館時間
午前10時〜午後8時(入場は午後5時30分まで)
特別展開催中の金・土・日曜日は午後8時まで(入場は午後7時30分まで)
※ただし、美術情報センターの利用時間は午前10時〜午後6時
- 休館日
月曜日(祝休日の場合は翌日)ただし5月5日(火)、9月22日(火)は開館
年末年始(12月31日、1月1日)
- 観覧料
●特別展 展覧会によって異なります。
●コレクション展(収蔵品によるテーマ展・常設展)

	個人	団体
一般	500円	400円
大學生	400円	300円

- ※高校生以下無料。※団体は20名以上。
※70歳以上、障がいのある方には割引があります。
※障害のある方1名につき、介護者の方1名は無料。
※特別展別のセット割引があります。
※毎月第2日曜日は(公財)伊藤文化財団の協賛により無料開放。



- 交通アクセス
電車
○阪神西園寺駅(兵庫県立美術館)から南へ徒歩約8分
○JR神戸線西園寺駅(兵庫県)から南へ徒歩約10分
○阪急神戸線王子公園駅(兵庫県)から南西へ徒歩約20分
- バス
○JR三ノ宮駅から、阪神バス「HAT神戸行き」、神戸市バス「101系統」(28系統)にて約15分、「県立美術館」下車です。
- 車
○阪神高速3号神戸線「摩耶ランプ」から「摩耶ランプ」南(交差点を西へ「摩耶ランプ」から約5分)
○国道2号から「若園中町」(4)交差点を南へ
○地下有料駐車場 使用車印付
○団体バス待機所 要事前予約

兵庫県立美術館「芸術の館」

〒651-0073 神戸市中央区臨海町1-1-1 [HAT神戸内]
TEL 078-262-0001 FAX 078-262-0003
https://www.artm.pref.hyogo.jp/

兵庫県立美術館 HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

<令和2年度> 展覧会のご案内

2020.4 ▶ 2021.3



原地孝四郎 (書) 1929年 木版紙 20.5x15.0cm

Exhibition Guide

コレクション展

当館では、前身である創立近代美術館時代から国内外の彫刻、版画のほか兵庫ゆかりの作家を中心に、日本の近現代美術を収集してきました。この展示では、1年を2期に分けて、収蔵品によるテーマ展・館外作品も含む小企画を開催します。(詳細は要覧)

小企画

常設展示室の一角を使った企画展。所蔵作家に外部からの借出作品を加えることで、テーマ性を持った展示を行います。

小企画

特定のテーマにしたがって所蔵作品を展示し、美術鑑賞に新しい視点を持ち出します。
※2期を通じて以下の展示も開催します。

小磯良平記念室・金山平三記念室(常設展示室3期)

神戸に生まれた近代日本洋画を代表する小磯良平、金山平三の2人の画家の記念室では、年間を通じてそれぞれ代表作を中心に20数点を展示しています。



金山平三 (大石田電上川) 1947年
小磯良平 (青楓) 1941年
※掲載されている作品が展示されているとは限りませんので、ご了承ください。

Ando Gallery

安藤忠雄氏の作品模型やドローイングなどを展示しています。震災復興のためのプロジェクト、さらに現在取り組んでいる最新のプロジェクトも紹介します。



【模型プロジェクト】青い人

【模型プロジェクト】Punta (山) Dosane 模型 (30x40x10 木製) 1

特別展
カレンダー
2024.4~2025.3

2024	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2025	1	2	3
MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31											

※休日は振替日です。

※年末年始休暇(12/31、1/1)

特別展

開館50周年
超・名品展
Hyogo Art Museum 50th Anniversary
Beyond Mo-Hi Masterpieces of Japanese Modern Art, 1870s~1970s

4月11日(土)~6月7日(日)

当館は1970年10月に兵庫県立近代美術館として開館しました(2022年当館の移転後、兵庫県立美術館に改称)。本年(2023年)、開館から50年を迎えるにあたり、開館以来、数日の間に開催してきた名作展、新作展等の総編として開催します。時勢の経過とともに変化する作品のあり方、私たちが名品の関係などに目を向けながら、当館所蔵品を通じて、各地の主要美術館のら借用した作品約100点を展示します。



菊池 勇生 (1874~1974) 1974
東京国立近代美術館蔵 (複製 2018)

ミナペルホネン/皆川明 つづく
mina perhonen / minagawa akira TSUZUKU

6月27日(土)~8月16日(日)

デザイナーの皆川明(1967-)が設立したブランド「ミナペルホネン」流行に左右されず、長年着るべき普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をコンセプトとし、オリジナルの生地からプロダクトを生み出す独自のもののづくりを続けてきました。ミナペルホネンと皆川明のものづくりとその考えをこれまでにない規模で紹介いたします。



tsu 2018 "A" photo. Mitsuo Okamoto

ハリー・ポッターと魔法の歴史
Harry Potter: A History Of Magic

9月5日(土)~11月8日(日)

現代を代表するファンタジー文学「ハリー・ポッター」シリーズ。その背景には、イギリスをはじめ世界を巡る伝わる魔法、呪文、古いといった文化が存在します。本展は、大英図書館が2017年に開催した展覧会の日本語版図で、魔法、錬金術、天文学、巫魔などに関する貴重な資料をハリー・ポッター魔法学校のカリキュラムに沿って展示します。



ラビ・アブラハム・エレンツァー
(大英の古本) 1784年 大英図書館蔵
© British Library Board

スーラージュと森田子龍(仮題)
Pierre Soulages and Morita Shiryu

11月28日(土)~2021年1月24日(日)

フランスのアブストラクショニズムと兵庫県の交流50周年を記念し、アブストラクショニズムの巨匠スーラージュ(1919-)と、兵庫県出身の書家・森田子龍(1912~1988)を取り組むという企画が、互いの共通点と相違点について考えをめぐらし、互いの表現を確立した軌跡を振り返ります。



森田 (左) とスーラージュ (中)
1897年、パリにて

マヌエル・フランケロ展(仮題)
Manuel Franco

2021年2月6日(土)~4月4日(日)

スペインのマラガに生まれ、現在マドリッドで制作を続けるマヌエル・フランケロ(1963-)の日本初の個展。70年代に絵画を学んだ後、現在は写真やインスタレーションや多様なメディアで表現するフランケロは、鑑賞者に迫る積極的なリアリティを体現するアーティストです。自身の創造のやり方を「現実の地図をつくること」と定義するフランケロの作品には、「写真」や「リアリズム」という言葉では捉えきれない多岐にわたる世界観が内蔵しています。本邦初公開および同様の作品を一堂に展示します。



マヌエル・フランケロ
(Things in a room (Styls)) 2018年
© VEGAP, Madrid & JASPAR, Tokyo 2020 © VEGAP

共催展
ミニチュアライフ展
一田中達也 見立ての世界ー
3月13日(金)~4月11日(土)
会場:当館ギャラリー棟3階

クロアチアの首都ザグレブに学び、コッペンハーゲンの新館展覧会「ジオラマ」中の人物と日用品をミニチュアに作り、くすくすとした世界を創り出す。一田中達也のミニチュアライフ展が、くすくすとした世界を創り出す。一田中達也のミニチュアライフ展が、くすくすとした世界を創り出す。



一田中達也 (1951~) ミニチュアライフ展
© Tatsuhiro Tanaka

共催展
明治の金メダリスト 大橋翠石
一虎を極めた超常の画家ー
4月18日(土)~5月31日(日)
会場:当館ギャラリー棟3階

独逸の美術家、明治時代に海外の洋画で活躍し、金メダルを獲得した日本画家、大橋翠石(1892~1965)。名品が同様に展示される。後半は翠石の作品で、独逸時代となる大橋翠石です。



大橋翠石 (大橋翠石) 1902年 個人蔵

共催展
風を食べて動く生命体
7月11日(土)~9月27日(日)
会場:当館ギャラリー棟3階

巨大な人工生命体「ストランドビースト」で知られ、「現代のオールド・グランド」に例えられるテオ・ヤンセン(1928-)の作品は、科学や自然と結びつた、世界観を現代アートに体現しています。



テオ・ヤンセン (テオ・ヤンセン・ペリシエール・プリムス) 2008年 © Theo Jansen

テオ・ヤンセン展
7月11日(土)~9月27日(日)
会場:当館ギャラリー棟3階

2020年展
8月1日(土)~8月22日(土)
会場:原田の森ギャラリー
本館2階大展示室

公募展として、美術界に知られた方々の発表の場として続けてきた本展は、今年で68回目を迎えます。出品作品は4月中旬に県内各所で配布予定。兵庫にわたるあふれる文化のこころに込められた作品をぜひご覧ください。

注目作家紹介プログラム
一田中達也 見立ての世界ー
11月21日(土)~12月20日(日)
会場:当館アトリエ

現在活躍している作家を紹介するシリーズの第11回として、愛知縣を拠点に活動している若手作家(1971-)にスポットをあてます。今回、アトリエを使って、神戸にいらるあふれる文化のこころに込められた作品をぜひご覧ください。



一田中達也 (1951~) ミニチュアライフ展

2023年コレクション展1
動く!美術ー動きはどう表現されてきたかー
Motion in ArtーVisual Experiments in Expressing Motionー

3月29日(金・祝)~9月22日(火・祝)
(6月29日(月)~7月6日(金))は展示替えのため休室

本展では美術の中の「動き」に着目します。動きを人、動物、植物に与えた自然の動きーこれらは、本質的に「動的」なものである美術においてどのように表現されてきたのでしょうか。絵画や立体作品の中心にえられた様々な動きの表現を考察します。



藤内希典 (大正10年) 1899年

美術の中のかたちー手で見える造形
東影智裕 展(仮題)
Form in ArtーPerceiving with the Hand Hasegawa Tomoyuki

7月11日(土)~9月22日(火・祝)

1989年に始まった美術でも作品を鑑賞できるこの企画。今年は、東影智裕(1970-)の作品を紹介します。7月11日より初めて精巧に表現された動物の頭部のような作品は、時に描かれた皮膚やその質感の表現と違って、見る者に深い印象をあたえます。作品に直接触れることで、作者の造形思考や行為をより身近に感じられる場を展示します。



東影智裕 (1970年 現在 40歳)
2018年 作品展

2020年コレクション展1
「新収蔵作品展」(仮題)
New Acquisitions
10月10日(土)~12月27日(日)

令和元年度の新収蔵品を、蔵品のコレクションとともにテーマに沿ってご紹介いたします。

入館券 (3月6日~2020年 無料) 無料

吉田博 捕魚造船所 絵画群(仮題)
The Paintings by Yoshida Hiroshi in Kurena Shipyard

10月10日(土)~12月27日(日)

吉田博(1879~1960) 捕魚造船所出身。明治、大正、昭和にわたって活躍した画家、洋画家です。彼がアジア太平洋戦争時に捕魚造船所(相生市)の作業風景を描いた絵をまとめて展示します。

吉田博 (大正10年の絵画) 1944年

2021年コレクション展1
コレクション名品展(仮題)
Selected Masterpieces
2021年1月23日(土)~

コレクションの中から取り替える名品を中心に展示します。

